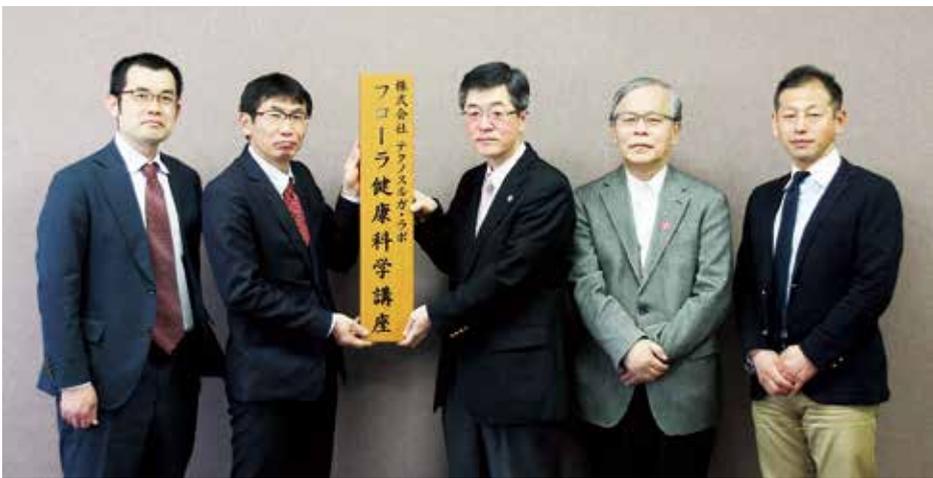


医学部ウォーカー

1面：共同研究講座... 2面：健康増進プロジェクト... 3面：脳神経血管病態研究施設... 4面：弘前大学学生表彰... 5面：研究修... 6面：ベスト賞... 7面：前期研究... 8面：研究修... 9面：SD章授与式... 10面：SD章授与式... 11面：SD章授与式... 12面：SD章授与式... 13面：SD章授与式... 14面：SD章授与式... 15面：SD章授与式... 16面：SD章授与式...

題字 前弘前大学長 遠藤正彦氏筆



さる四月十一日、医学研究科長室で共同研究講座「フローラ健康科学講座」の開講式（二〇一八年四月一日開講）が執り行われまし...

「QOL推進医学講座」の設置にあたって
さる五月七日、医学研究科大会議室で共同研究講座「QOL推進医学講座」の開講式（二〇一八年四月一日開講）が執り行われまし...

後、さらに大きなビッグデータを集積することで、より詳細なフローラの健康価値について明らかにできると考えます。
岩木健康増進プロジェクトのデータでは、16S rDNAメタゲノム解析法と全ゲノムショットガン解析法を二〇一五、二〇一六の兩年、さらには腸内と口腔内の細菌において実施していま...

「QOL推進医学講座」の設置にあたって
通常の健診・研究では設定しませんが、岩木健康増進プロジェクトではそれに加えてQOLの向上も目指しています。近年の健康寿命（QOL向上）志向の世の中の流れに合致したものと考えるからです。クラシエが扱う、冷え、もそのQOLの中心にあるべき大きなテーマです。
本年の岩木健康増進プロジェクト健診では、指尖の毛細血管の画像化に挑戦し、体表温度や血流の測定、冷え症の聞き取り調査を行う予定です。ともすれば主観的な病態にとらえられていた冷え症に客観的データと科学の目を入れることで、高齢化社会で特に問題となっている「冷え」の実態解明と予防・事後対策の開発を目指します。岩木健康増進プロジェクトでは世界最大二千の項目を測定し、全身の機能評価を指しています。

また、今後同社の「大きく健康と未病の問題に取り組んでいく」という姿勢を取り入れ、より多彩で新たなテーマが生まれてくる可能性もあります。胸躍る、大きな可能性を秘めた講座です。
私がクラシエホールディングス（株）の会社の方とお会いしたのはつい一年前のことです。そのころはまだ共同研究のテーマも決まっていなかった。そのような状況にありながら、いち早く岩木健康増進プロジェクトへの参加を決め、複数の社員の皆さんの派遣をいただき、受診者の誘導など健診会場であらゆる分担当を快く引き受けていただきました。このようなところに同社の真摯な姿勢が垣間見え、大きな信頼が生まれました。本プロジェクトが目指す「短命県返上」というある種「泥臭い」目標にも汗をかいていただけると信じています。

本講座の発展が、新しい医学研究の展開に一石を投じることを願っています。関係者の皆様にはなにとぞよりしくお願いいたします。

共同研究講座

「フローラ健康科学講座」の設置にあたって

設置にあたって
特任教授 中路重之

さる四月十一日、医学研究科長室で共同研究講座「フローラ健康科学講座」の開講式（二〇一八年四月一日開講）が執り行われまし...

「QOL推進医学講座」の設置にあたって
さる五月七日、医学研究科大会議室で共同研究講座「QOL推進医学講座」の開講式（二〇一八年四月一日開講）が執り行われまし...

後、さらに大きなビッグデータを集積することで、より詳細なフローラの健康価値について明らかにできると考えます。
岩木健康増進プロジェクトのデータでは、16S rDNAメタゲノム解析法と全ゲノムショットガン解析法を二〇一五、二〇一六の兩年、さらには腸内と口腔内の細菌において実施していま...

「QOL推進医学講座」の設置にあたって
通常の健診・研究では設定しませんが、岩木健康増進プロジェクトではそれに加えてQOLの向上も目指しています。近年の健康寿命（QOL向上）志向の世の中の流れに合致したものと考えるからです。クラシエが扱う、冷え、もそのQOLの中心にあるべき大きなテーマです。
本年の岩木健康増進プロジェクト健診では、指尖の毛細血管の画像化に挑戦し、体表温度や血流の測定、冷え症の聞き取り調査を行う予定です。ともすれば主観的な病態にとらえられていた冷え症に客観的データと科学の目を入れることで、高齢化社会で特に問題となっている「冷え」の実態解明と予防・事後対策の開発を目指します。岩木健康増進プロジェクトでは世界最大二千の項目を測定し、全身の機能評価を指しています。

また、今後同社の「大きく健康と未病の問題に取り組んでいく」という姿勢を取り入れ、より多彩で新たなテーマが生まれてくる可能性もあります。胸躍る、大きな可能性を秘めた講座です。
私がクラシエホールディングス（株）の会社の方とお会いしたのはつい一年前のことです。そのころはまだ共同研究のテーマも決まっていなかった。そのような状況にありながら、いち早く岩木健康増進プロジェクトへの参加を決め、複数の社員の皆さんの派遣をいただき、受診者の誘導など健診会場であらゆる分担当を快く引き受けていただきました。このようなところに同社の真摯な姿勢が垣間見え、大きな信頼が生まれました。本プロジェクトが目指す「短命県返上」というある種「泥臭い」目標にも汗をかいていただけると信じています。

本講座の発展が、新しい医学研究の展開に一石を投じることを願っています。関係者の皆様にはなにとぞよりしくお願いいたします。

本講座の発展が、新しい医学研究の展開に一石を投じることを願っています。関係者の皆様にはなにとぞよりしくお願いいたします。

「QOL推進医学講座」の設置にあたって
特任教授 中路重之

「QOL推進医学講座」の設置にあたって
特任教授 中路重之

「QOL推進医学講座」の設置にあたって
特任教授 中路重之

「QOL推進医学講座」の設置にあたって
特任教授 中路重之



若林孝一 佐藤 敬 岩倉昌弘

寄附講座

「地域健康増進学講座」を終えて

社会医学講座 特任教授 中路重之

岩木健康増進プロジェクトが始まったのが平成十七年でした。葛西憲之市長が誕生したのがその五年後の平成二十二年です。市長に初めてお会いした時の会話が以下でした。

市長「これだけ熱心にやったら弘前市の健康づくりの解決方法がみえてきたでしょう」

私「市長、正直何も見えてきていません」

市長「どうしてですか？」

私「青森県の短命も弘前市の短命もほぼ同じ背景です。喫煙率の高さ、塩分の過剰摂取、運動不足、健診受診率の低さ、などなどです。しかし、それが分かっただけでは何も始まりません。市民一人ひとりがこのような現状を把握し、健康の知識をつけて実践に結びつけるのはためです。そのためにも、市民の中に健康リーダーを育成することが大切ですね」

市長「健康リーダー育成というのはそんなに大切なものですか」

私「はい、とても。喫煙対策を行うとき、喫煙の健康被害の記事を新聞や広報に載せれば良いという意見がありますが、喫煙者がある記事を読むことはありません。健康づくりの本質はそこにあります。結局は人から人なのです。健康づくりの仲間を増やしていくことが大切ですね。長野県も保健指導員など健康リーダーの育成に力を注いできたことで長寿県を成し遂げました」



葛西市長が寄附講座「地域健康増進学講座」を大学に設置したのはまもなく平成二十四年四月でした。講座開設と同時に沢田かほり助教を中心にひろさき健康増進リーダー育成事業が開始されました。平成二十四年のことです。市民から参加者を募り九月から二月までの半年間、非常に濃密な講義が行われました(写真参照)。実習も豊富で、日本体育大学の荒木達雄教授による健康運動の指導、岩木健康増進プロジェクトや小中学校健康調査への参加がありました。講義内容もバラエティーに富み、青森県の短命県返上やメタボ・ロコモに始まり、うつ、認知症などなど、最終的にはワークショップで今後の健康づくりのあり方につき熱く語り合いました。

卒業生は六期生までで八四名になりましたが、リーダーの皆さんが市内で毎日平均二か所で健康づくり活動をしています。そのスケジュール表をみるとまさに驚かされます。その結果、昨年度に医学教育センターを実質化しました。今回は医学教育センターの六つの部門(図)と取り組むべき課題などについて紹介したいと思います。

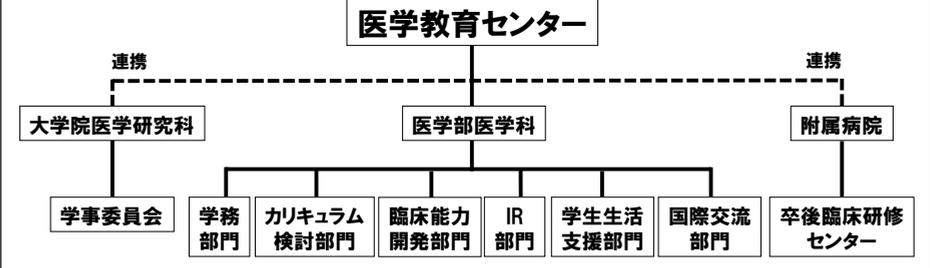
学務部門(部門長: 鬼島教授)は学務委員会そのものと言ってもよいです。IR部門(部門長: 佐々

木教授)では、学生の成績評価、進級判定、教員に対する教育評価、教育FDなどを行います。カリキュラムの作成を行います。学生や多くの教員の意見を反映させるため、少なくとも学生を正式なメンバーとして加えるほか、教育の専門家を加えたカリキュラム委員会を今後構築する必要があります。

臨床能力開発部門(部門長: 加藤教授)では、臨床実習の構築と評価に関する検討を行います。従来型の臨床実習では学生がどの診療科を何週回るかを決定し、その内容については各診療科にまかせていました。しかし、今後は臨床実習全体の中で経験すべき症候や病態は何かを各診療科が共有することが重要です。また、今年度から四年次に導入されるPBLのシナリオを進め方についても検討を進めています。

IR部門(部門長: 佐々木教授)では、学生の成績評価、進級判定、教員に対する教育評価、教育FDなどを行います。カリキュラムの作成を行います。学生や多くの教員の意見を反映させるため、少なくとも学生を正式なメンバーとして加えるほか、教育の専門家を加えたカリキュラム委員会を今後構築する必要があります。

国際交流部門(部門長: 若林孝一)では、学生の国際交流や海外研修を行います。今年度から台湾のマツケイ医科大学との医学士の相互派遣もスタートしました。



木教授)では、学生の成績評価、進級判定、教員に対する教育評価、教育FDなどを行います。カリキュラムの作成を行います。学生や多くの教員の意見を反映させるため、少なくとも学生を正式なメンバーとして加えるほか、教育の専門家を加えたカリキュラム委員会を今後構築する必要があります。

IR部門(部門長: 佐々木教授)では、学生の成績評価、進級判定、教員に対する教育評価、教育FDなどを行います。カリキュラムの作成を行います。学生や多くの教員の意見を反映させるため、少なくとも学生を正式なメンバーとして加えるほか、教育の専門家を加えたカリキュラム委員会を今後構築する必要があります。

IR部門(部門長: 佐々木教授)では、学生の成績評価、進級判定、教員に対する教育評価、教育FDなどを行います。カリキュラムの作成を行います。学生や多くの教員の意見を反映させるため、少なくとも学生を正式なメンバーとして加えるほか、教育の専門家を加えたカリキュラム委員会を今後構築する必要があります。

IR部門(部門長: 佐々木教授)では、学生の成績評価、進級判定、教員に対する教育評価、教育FDなどを行います。カリキュラムの作成を行います。学生や多くの教員の意見を反映させるため、少なくとも学生を正式なメンバーとして加えるほか、教育の専門家を加えたカリキュラム委員会を今後構築する必要があります。

IR部門(部門長: 佐々木教授)では、学生の成績評価、進級判定、教員に対する教育評価、教育FDなどを行います。カリキュラムの作成を行います。学生や多くの教員の意見を反映させるため、少なくとも学生を正式なメンバーとして加えるほか、教育の専門家を加えたカリキュラム委員会を今後構築する必要があります。

IR部門(部門長: 佐々木教授)では、学生の成績評価、進級判定、教員に対する教育評価、教育FDなどを行います。カリキュラムの作成を行います。学生や多くの教員の意見を反映させるため、少なくとも学生を正式なメンバーとして加えるほか、教育の専門家を加えたカリキュラム委員会を今後構築する必要があります。

医学教育センターについて 医学研究科長 若林孝一



が、学生の成績評価、進級判定、教員に対する教育評価、教育FDなどを行います。カリキュラムの作成を行います。学生や多くの教員の意見を反映させるため、少なくとも学生を正式なメンバーとして加えるほか、教育の専門家を加えたカリキュラム委員会を今後構築する必要があります。

が、学生の成績評価、進級判定、教員に対する教育評価、教育FDなどを行います。カリキュラムの作成を行います。学生や多くの教員の意見を反映させるため、少なくとも学生を正式なメンバーとして加えるほか、教育の専門家を加えたカリキュラム委員会を今後構築する必要があります。

くりは町づくりという信念でやってきましたが、まさにそれを実感できる瞬間でもあります。このような動きはその後の健康サポーターの育成(現在約三三〇人)に発展し、また青森市でも同様な取り組みが始まりました。青森県の中心である両市のこのような取り組みは必ずや青森県の短命県返上につながるものと信じます。本講座は、六年の設置期間を無事終え、その役割を十分に果たしたということでした。閉じられます。しかし、巣立ったリーダーの皆さんと大学の関係性はまだまだ続きます。市との強い連携も同様です。育った精神はまだ生きているということ。本講座を設置していただき、また青森市長をはじめ弘前市の皆さまには大変お世話になりました。心から御礼申し上げます。

間を無事終え、その役割を十分に果たしたということでした。閉じられます。しかし、巣立ったリーダーの皆さんと大学の関係性はまだまだ続きます。市との強い連携も同様です。育った精神はまだ生きているということ。本講座を設置していただき、また青森市長をはじめ弘前市の皆さまには大変お世話になりました。心から御礼申し上げます。

附属病院長再任に際してのご挨拶 附属病院長 福田眞作



佐藤敬学長からのご指名を受け、二〇一八年四月一日より附属病院院長二期目を務めさせていただいております。一期目の二年間では、教職員の多大なるご尽力によりまして、病院再整備の方向性を決定し、病院取支の改善による医療機器の大幅な更新を実施することができました。他にも、ハイブリット手術室の導入(平成三十一年度春、稼働予定)、患者サービス向上に資するような施設整備(デジタルサイネージの導入、銀行ATM移転など)も行うことができました。二年間、精一杯やりきったと思う(いたい)反面、残念ながら、病院で働

く職員の労務、待遇の改善に際しては、この二年間で実感できるような実績をあげることができず、申し訳なく思っております。また、浮き彫りになってきた本学の地域枠制度の問題についても、解決しなければならぬ課題がいくつも残されております。ということと、自分に与えられた使命が少なくとも二つはあるのだからと考え、二期目の病院長の指名をお受けいたしました。今、国会で「働き方改革法案」についての審議が行われています。我が弘前大学医学部附属病院の労務の実態はどうでしょうか? 当院の常勤医師には裁量労働制が適用されております。医師不足や応召義務がある中であって果たして裁量権が十分に行使されているのか、把握する必要があります。現在、職員の労働時間の把握は、就業時間管理表によって行われ

脳神経血管病態研究施設長の 就任にあたって

脳血管病態学講座 教授 今 泉 忠 淳

平成三十年二月一付で、脳神経内科学講座の東海林幹夫教授の後任として、弘前大学大学院医学研究科附属脳神経血管病態研究施設の施設長を拝命いたしましたので、ご挨拶させていただきます。この長い名前の施設は、通常は、「脳研」と略して呼ぶことが多いです。脳研は、現在、脳神経病理学講座、脳血管病態学講座、脳神経生理学講座、脳神経内科学講座の四講座から構成されています。

在の脳神経内科学講座が設置されました。平成十一年（一九九九）には、附属脳神経血管病態研究施設に改組され、平成十九年（二〇〇七）に、医学科が大学院部局化されて医学研究科となったのに伴い、現在の四講座となっています。

脳研のメンバーは、研究のみならず、教育、管理業務、診療業務、地域貢献活動など多くの業務に従事しています。脳研のミッションは、一義的には、研究、すなわち、原著論文の発表にあると考えています。個々の講座が独自のテーマで研究を推進しているのに加え、脳神経病理学講座の若林孝一教授（医学研究科長）を中心に、弘前



写真1 昭和50年（1975）の病態生理学部門の花見 前列左に当時大学院生であった佐藤敬現弘前大学長



写真2 平成29年（2017）の脳血管病態学講座で研究室研修実習中の医学科学生



右：佐々木達也会長

この度、第三十四回スパズム・シンポジウムにおいて、優秀論文賞を受賞致しました。「スパズム・シンポジウム」は、国内の脳卒中関連で最大の学会である「STROKE」において「日本脳卒中学会」が主催し、今年度は七千名近くの規模でした。このような大規模な学会で名誉ある賞を受賞でき、大変光栄に

存じます。スパズム・シンポジウムは脳血管攣縮（cerebral vasospasm）をはじめとする、くも膜下出血後の諸病態を議論するシンポジウムであり、優秀論文賞は前年度に発表された論文を対象に選考されます。



右：大熊教授

今回受賞した論文は、「日本脳卒中の外科手術集」と合同で開催される学術集会です。「STROKE」には、脳神経外科医に限らず、脳卒中に関わる内科、外科、基礎研究者全てが参加し、今年度は七千名近くの規模でした。このような大規模な学会で名誉ある賞を受賞でき、大変光栄に

合併症です。急性期の手術が成功してもなお、脳血管攣縮を発生すると予後不良となってしまう。そして今なお、有力な治療法は確立されておられません。今回の研究では治療薬としてスタチンに着目しました。スタチンは高脂血症治療薬として汎用されていますが、血清脂質降下作用の他に、血管拡張作用を含む多面的作用を有しています。以前にも脳血管攣縮に対して一般的なスタチン投与が臨床的に試みられてきたことが著明な有効性は示されませんでした。そこで、作用時間が長く、より多くの多面的作用を持つスタチンの有効性を検討するために、県内四施設において無作為比較試験を施行しました。具体的

本症例は、青森県内の脳神経外科施設による共同研究として、くも膜下出血治療に関するエビデンスの構築に貢献し得た点で大きな意義を有しています。今後とも、同様の共同研究を遂行し、くも膜下出血の予後向上に寄与したいと存じます。

（次ページへ続く）

スパズム・シンポジウムにて 優秀論文賞を受賞して

附属病院 脳神経外科 講師 奈良岡 征 都

子どものこのころの発達研究センター、関連講座、保健学研究科、農学生命科学部とも連携しています。現在の脳研には、北は北海道、南は鹿児島県、そのほか、日本各地の出身者が集まっています。また、バックグラウンドも、医学部、獣医学部、歯学部、薬学部、農学部、水産学部、工学科学部など様々な分野

に渡っていて、ヘテロな集団を形成しています。このメンバーの多様性を大きな武器として、研究活動を活性化していきたいと考えています。これからは、講座間、学部間の垣根のない、活発な共同研究を推進していきたいと考えておりますので、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

二〇一八年二月二日、三日に仙台国際センターで開催された第百六十回日本消化器内視鏡学会東北支部例会において、優秀演題賞を受賞したので報告させていただきます。

演題名は「内視鏡的に摘除したPaneth様腫瘍細胞を伴う早期胃癌の一例」です。Paneth細胞は回腸のLieberkuhn腺に存在する細胞で、胃の腸上皮化生に高頻度に出現する細胞です。これに類似する腫瘍細胞をPaneth様腫瘍細胞といいますが、Paneth様腫瘍細胞を伴った胃癌は頻度としては胃癌全体の〇.二〜四.には、くも膜下出血症例をスタチン群（ビタバスタチン4mg/日投与、五十四例）およびプラセボ群（五十四例）に無作為に割り付け比較検討しました。

その結果、脳血管撮影上の脳血管攣縮発生率はスタチン群で有意に低率となりました。他のエンドポイントでは、スタチン治療群で

皮化生は完全型と不完全型に分類されます。通常の分化型腺癌は不完全型腸上皮化生が関連するのに対し、Paneth様腫瘍細胞の発生には完全型腸上皮化生が関連していると考えられます。完全型腸上皮化生は、刷子縁、杯細胞、Paneth細胞があり、MUC5AC、MUC6、陰性で、MUC2陽性、CD10陽性となることが多く、今回の腫瘍も同様でした。今回は、発生母地の異なる、Paneth様腫瘍細胞を伴う早期胃癌と通常の高分化型腺癌を、同時に内視鏡的に摘除し得た稀な症例ということで報告させて頂きました。

附属病院 消化器内科、血液内科、膠原病内科 医員 新井 徹

(前ページより)
考えてみると、免疫染色等
を追加して病理組織学的に
詳細な検討を行い報告した
ことが評価されたのかと感
じています。

数多くの日常業務をこな
していく中で、処置がうま
くいき、術後経過が問題な
く、病理組織学的に治療切
除が得られていればそれで
よしとしてしまいがちにな
ります。しかし、その組織
型が稀なものであることを
見逃さず、症例報告にまで
こぎつけたことが今回の受
賞に繋がったのだと思いま
す。今回この発表に関して

珍田大輔先生に指導を受け
る中で、医療の場であると
ともに学術研究の場でもあ
る大学院において、日々
の臨床の中で生じた事柄に
対して、疑問を持ち調べる
ことの大切さを改めて認識
することになりました。

最後に、消化器血液内科
学講座の珍田大輔先生をは
じめ、福田眞作教授、下山
克准教授、三上達也先生、
病理組織学的な検討につい
て多大なご協力・ご助言を
いただいた病理生命科学講
座の羽賀敏博先生、鬼島宏
教授に深く御礼を申し上げ
ます。

平成29年度 弘前大学学生表彰

教育委員会副委員長 鬼島 宏
(病理生命科学講座 教授)

平成三十年三月七日、平
成二十九年度弘前大学学生
表彰式が、文京地区の大学
会館にて開催されました。
弘前大学学生表彰は、当該
年度ないしその前年度に課
外活動・研究活動・社会活
動等で顕著な成果を挙げた
学生または団体が表彰され
るに値するものが、全学の
教育委員会が審議・選出さ
れて、学長より表彰される
制度です。今年度は医学
科・医学研究科からは、以
下の八名(個人)および三
団体が荣誉ある表彰を受け
ました。

- 海老名日奈子(二年) 第60回東
 医体女子空手個人組手優勝
- 廣澤 瞬(五年) 第60回東
 医体男子ソフトテニス個人優勝
- 八尾 祥吾(五年) 第60回東
 医体男子ゴルフ個人優勝
- 濱谷 智子(六年) 第59回東
 医
- 野村 優(五年) K-1カレッ
 シ2017 55kg級優勝
- 小玉 寛健(院一年) 研究論文
 がOnotarget(英文国際誌)
 の108)に掲載
- 阿南 剛(院一年) 研究論文
 がOnotarget(英文国際誌)
 の108)に掲載
- 久保田優花(院一年) 研究論文
 がOnotarget(英文国際誌)
 の108)に掲載
- 医学部競技スキー部 第59回東
 医体(冬季)女子総合優勝
- 医学部卓球部 第60回東医体女
 子団体準優勝
- 医学部空手道部 第60回東医体
 女子団体組手準優勝

弘前大学医学部では、国
家試験合格率のみならず、
共用試験結果や臨床研修に
おける卒業生の活躍など
で、全国的にも教育レベル
が高い評価を受けるように
なっています。加えて、今

回の学生表彰者をはじめと
して課外活動等の分野でも
活躍してくれる学生が多い
のは、頼もしい限りです。
今年度より弘前大学の学生
表彰採択が、より厳しい基
準で行われたにもかかわらず、
計十一個人・団体(含、
大学院三名)が被表彰とな
りました(二十八年度十六
件、二十七年十六件、二十
六年十一件、二十五年十
三件、二十三年七件)。研
究活動において顕著な成果
を挙げた被表彰学部学生
は、今年度はいまませんで
した(二十八年度三名、二十
七年度〇名、二十六年一
名、二十五年二名、二十
四年度五名)。こ
れは、表彰の目安
がインパクトファ
クター二・〇の英
文論文(学部学生)
となり厳しい条件
の為かと思われま
す。現在、研究室
研修は学部三年次
に組み込まれお
り、在学中比較的
長期に研究に触れ
る機会があります
ので、来年度以降、
研究活動での被表
彰学部学生が出て
くれることを期待
しています。一方、
課外活動(クラブ
活動)は全般に盛
んであり、被表彰
団体をはじめとし
て各部活動がここ
数年東医体等で好
成績を続けている
のは賞賛に値しま
す。



平成29年度弘前大学学生表彰式

今後、学生諸
君が弘前大学医学
部医学科で文武両
道を実践するとと
もに、より一層充

平成29年度 医学科学位伝達式

学務委員長 鬼島 宏
(病理生命科学講座 教授)

平成三十年三月二十三日
午後三時三十分から基礎大
講堂において、平成二十九
年度学位記(医学士)伝達
式が、佐藤敬学長ならびに
西澤一治副学長理事長ご列
席のもとで行われました。
今回、医学部医学科の卒業
生は百三十六名であり、こ
の中には六十二名(AO入
試入学四十五名、前期定着
枠十六名、学士青森県枠一
名)と多数の地域枠学生が
含まれており、将来的に弘
前医療圏での活躍が期待さ
れています。多くの学生が
勉学の苦勞を乗り越え、さ
らには国試合格の直後でも
あり、会場内は笑顔の花が
咲いていました。



平成29年度 弘前大学医学部医学科学位記伝達式



伝達式では、若林孝一医
学部長が卒業生一人一人と
固い握手をかわしながら、
学位記の伝達が行
われました。会場を埋
め尽くした卒業生に加え
て、保護者やご来賓
の方々、さらには教育
指導にあたった教員
も、新たな門出の喜び
を卒業生と共有しまし
ました。伝達式の後半で
は、若林医学部長か
ら挨拶があり、高齢化
社会を迎える中での医
療への期待の大きさに
対し、地域医療の担い
手であり、かつ世界を
リードするようなプロ
フェッショナルとして
実力を発揮していただ
きたい旨が強調されま
した。西澤副学長理事
長からは、同窓会の輪
は全国に広がっている
ことなどのご紹介があ
りました。会場には金
屏風と見事な花が添え
られ、男子卒業生の
凛々しいスーツ姿、
女子卒業生の華麗な袴

姿、着物姿も加わり、厳肅
な中にも華やかな雰囲気
のもとで、式が終了しまし
た。

ついで先日まで雪景色の
市内も、この日は春の訪れ
を感じるかの好天に恵まれ
た中、同日の午後七時から
ホテルニューキャッスルに
おいて、医学部医学科第
六十四回卒業記念謝恩会が
開催されました。全員が
集った集合写真撮影後に卒
業生代表の開会の辞、若林
医学部長並びに佐藤学長の
祝辞があり、福田眞作病院
長による乾杯の音頭と続き
ました。会が始まると、
各先生を囲み勉学やクラブ
活動の想い出を振り返った
り、今後の進路について語
り合ったりと、卒業生は限
られた時間を惜しむように

H25～H29 卒業生進路状況

	H25年度卒業生進路		H26年度卒業生進路		H27年度卒業生進路		H28年度卒業生進路		H29年度卒業生進路	
	人数	%								
青森県	46	41.8%	59	51.3%	50	41.3%	57	47.1%	56	41.2%
北海道	7	6.4%	6	5.2%	6	5.0%	2	1.7%	3	2.2%
青森県以外の東北地方	12	10.9%	9	7.8%	19	15.7%	14	11.6%	15	11.0%
東京以外の関東地方	19	17.3%	8	7.0%	21	17.4%	16	13.2%	27	19.9%
東京都	4	3.6%	14	12.2%	4	3.3%	11	9.1%	4	2.9%
中部	8	7.3%	5	4.3%	7	5.8%	5	4.1%	14	10.3%
近畿以西	7	6.4%	5	4.3%	7	5.8%	4	3.3%	6	4.4%
国試不合格・その他	7	6.4%	9	7.8%	7	5.8%	12	9.9%	11	8.1%
合計	110	100.0%	115	100.0%	121	100.0%	121	100.0%	136	100.0%
医師国家試験合格者	103	93.6%	108	93.9%	116	95.9%	109	90.1%	125	91.9%

第百十二回医師
国家試験の受験者
総数は、医学部定
員数の増加を反映
して一人の台大
を超え、全体の合
格率は九〇・一%
(新卒九三・三%)。
弘前大学の合格率
は、新卒九二・六%
(二五/一三五)、
全体九二・九%と、
ほぼ全国並みでし
た。合格された皆
さんに心からお祝
い申し上げます。
さて、今回の国
家試験では実施方
法に大きな変更が
ありました。主な
変更点は、出題数
が一〇〇題減って
四〇〇題となり、
試験日数も三日か
ら二日に短縮され
た、配点が必修実
地臨床問題にウ
エートがおかれ
た、必修問題以外
の一般問題と臨床
実地問題の合格基
(次ページへ続く)

平成29年度卒業生国家試験結果ならびに 第112回医師国家試験結果ならびに

学務副委員長 袴田 健一
(消化器外科学講座 教授)

卒業生代表の謝辞で謝恩会が
閉じられました。
一学年全員が集合する機
会は、多分これが最後では
なかるうかと思えます。弘
前大学医学部医学科卒業と
いう誇りを背負い、これか
らも切磋琢磨して、全国で
活躍してくれることを願う
ものです。

(前ページより) 準が個別評価から両者の総合評価法にされた、などで内容も、記憶に頼る単純な問題が減り、実践的環境の中での病態理解力や臨床推論能力が求められる出題が増加しています。

次に、卒後の進路状況についてご報告します(表参照)。初期研修先は、青森県内(四一・二%)、東京以外の関東地方(一九・九%)、青森以外の東北地方(一一・〇%)の順で例年通りですが、中部地方が十四名、一〇・三%と多かつたのが今年の特徴です。

さて、本年度から新専門医制度がスタートしました。専門研修は基本領域のみの診療科と、基本領域とサブスペシャリティ領域の二段階の診療科があります。が、いずれの場合でも四年から五年程度の修練期間を課している診療科が多いようです。専門研修プログラムへの申し込みは初期研修二年目の夏に始まり、三年目の夏に専門性を決めるまでの期間は実質約一年となります。そのため、今までは「とりあえず」の初期研修先を決める学生が多かったのに対して、専門研修プログラムの申し込み先を念頭に初期研修先を決める方が増加しています。

このように、医師になるためのプロセスが大きく変化しています。日頃から社会の変化を意識していただきたいと思いますが、特に臨床実習の機会の活用が鍵となります。実践的な臨床能力を磨いて医師国家試験に備えるとともに、将来の専門性を考える機会としていただきたいと思います。

入試専門委員会報告

平成30年度 入学試験報告

医学科入試専門委員長 上野 伸哉 (脳神経生理学講座 教授)

平成三十年度入学試験は、AO、一般、学士入試の三つの形態で実施しました。AO入試では県内枠、地域枠、一般入試では全国枠、県定着枠、学士編入学においては、全国枠、青森県内枠とさらに細分化されています(表1)。志願者倍率はほぼ例年通りとなり(表2)、AO入試は、一次試験が平成二十九年十月七(八)日、二次試験は平成二十九年十一月五日に実施され、合格者四七名、学士編入学では、一次試験は平成二十九年十一月二十六日、二次試験は平成二十九年十二月十七日に実施され、合格者二〇(青森県内枠一名を含む)名、一般入試・前期日程に関して、平成三十

年二月二十五(二十六)日に実施され、合格者六五(県定着枠一五名を含む)名となりました。このように入試日も、以前と比べて多くなつた中、大きな支障無く実施でき、関係者各位に深謝いたします。 さて、この入試形態の多さは、学力だけではない多様な評価を取り入れるという文科省の方針に則った結果です。今後CET、OSCE、PreBSL、PostC-OSCE、臨床実習数増開始など、学部教育の行事増加も予定されており、できるだけ負担のかからない日程、内容の実施計画を立てて行く予定です(表4)。

その結果、平成二十三年以降、同地域の高校出身者比率は約六〇%で推移しており、方針に沿った形となつていきます(表3)。また、弘前大学での各形態における、地域定着枠は、医師不足、医師偏在に対応するため、入試要件として、青森県を中心とした地域医療に貢献する趣旨に則って確約書を提出し、受験資格を得ます。この確約書での約束は医学部卒業後に果たすことになり、この枠での入学者は、このことをしっかりと認識し、貢献してもらいたいです。

最後に医学部入試制度の動向について、平成二十年に暫定措置として定員増が開始され、全国の医学部入学定員は一、七九四人増となり、医学部定員は平成

平成29年度 OSCE実施状況

総合診療医学講座 教授 加藤 博之

平成三十年二月十日(土)、四年次学生百二十二名を対象として平成二十九年年度OSCEを実施しました。OSCEとは四年次の学生が、本年四月から医療チームの一員として診療参加型臨床実習(五年次BSL)に入るために必要な知識、技能、態度を有するかを評価する公式な実技試験であり、全国のすべての医学部で行われている。医療系大

学間共用試験実施評価機構(CATO)が作成したいくつかの分野に関する試験問題に対し、学生が試験官である教員の前で実技を行い、その習熟度について定められた評価表に基づき評価が行われる。

今回のOSCEの具体的な実施内容は、医療面接、頭頸部診察、胸部診察、バイタルサイン、腹部診察、神経診察、基本的臨床手技、救急の七つの分野について、ステーションと呼ばれる模擬診察室で、模擬患者(一部はシミュレーター)に対し、学生が面接、診察、手技を行い、これを教員が評価することによって行なわれた。今年度は救急を除く六つのステーションには、他大学の教員も外部評価者として参加した。またこれに加えてCATOからはモニターと呼ばれる他大学の教員一名が派遣さ

表1 平成30年度入学 入試形態

Table with 3 columns: AO入試, 一般入試, 学士編入学(第2年次). Sub-columns include 県内枠, 地域枠, 全国枠, 県定着枠, 全国枠, 青森県内枠.

AO入試の入学者全員、一般入試の県定着枠、および学士編入学の青森県内枠が「地域定着枠」としての入学者

表2 志願者倍率推移 (カッコ内は受験者倍率)

Table with 4 columns: 年度, AO入試, 前期日程, 計. Rows for years 23 to 30.

募集人員:

AO入試(すべて地域定着枠)は、平成25年度までは定員40名、平成26年度42名、平成27年度47名、平成28・29年度50名、平成30年度47名。前期日程の定員は、平成21年度は60名(うち青森県定着枠10名)、平成22年度~平成24年度65名(定着枠15名)、平成25年度67名(定着枠17名)、平成26年度70名(定着枠20名)、平成27年度65名(定着枠15名)、平成28・29年度62名(定着枠12名)、平成30年度65名(定着枠15名)。

この結果、AO入試と前期日程を合わせた定員は、平成21年度100名、平成22年度~平成24年度105名、平成25年度107名、平成26年~平成30年が112名となっている。

表3 地域別入学者数

Table with 6 columns: 年度, 青森県, 東北5県, 北海道, その他, 計. Rows for years 23 to 30.

表4 平成30年度中に行われる入試日程(予定)

Table with 2 columns: 日程, 試験内容. Rows for dates from October to February.

OSCE (Objective Structured Clinical Examination)は、客観的臨床能力試験(Ob)が、学生支援センター一号楼を会場に行なわれた。OSCEとは四年次の学生が、本年四月から医療チームの一員として診療参加型臨床実習(五年次BSL)に入るために必要な知識、技能、態度を有するかを評価する公式な実技試験であり、全国のすべての医学部で行われている。医療系大



OSCE 当日の会場風景

今回のOSCEの具体的な実施内容は、医療面接、頭頸部診察、胸部診察、バイタルサイン、腹部診察、神経診察、基本的臨床手技、救急の七つの分野について、ステーションと呼ばれる模擬診察室で、模擬患者(一部はシミュレーター)に対し、学生が面接、診察、手技を行い、これを教員が評価することによって行なわれた。今年度は救急を除く六つのステーションには、他大学の教員も外部評価者として参加した。またこれに加えてCATOからはモニターと呼ばれる他大学の教員一名が派遣さ

平成29年度 研究室研修優秀発表賞

脳血管病態学講座 教授 今泉忠淳

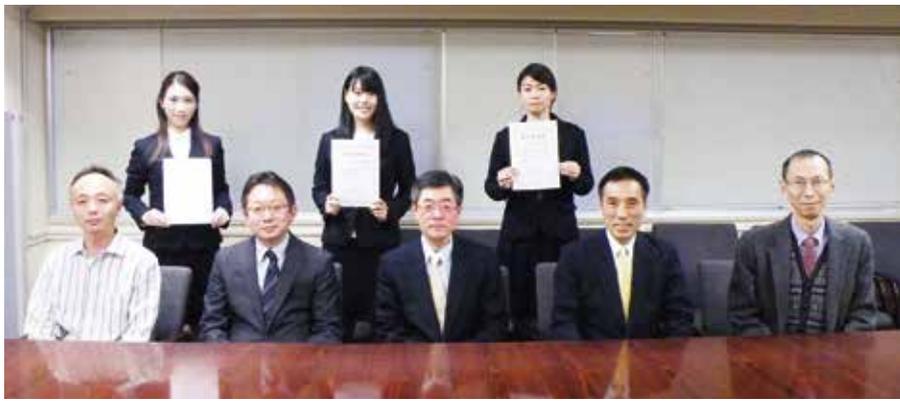


表 平成29年度研究室研修優秀発表賞受賞者 (指導講座)

子川 ひかる	(内分泌代謝内科学講座)
木村 紗也佳	(脳血管病態学講座)
今西 祥子	(病理生命科学講座)

(発表順)

平成二十九年度後期の「研究室研修」では、昨年と同様、三年度次学生が医学研究科の各講座のいずれかに配属され、十月から二月はじめまで研修を行いました。そして、研修の最後の週である二月七日の午前午後、八日・九日の午後、基礎大講堂で英語での発表会を行いました。発表会では、優秀発表賞の審査と「医学英語Ⅲ」の単位認定を行いました。学生一人あたりの持ち時間は六分(発表四分、質疑応答二分)で、各発表につき三名の教員が審査を行いました。その結果

を集計し、平均点の上位三名(表)が優秀発表賞に選ばれました。今回の受賞者は三名とも女性でした。子川ひかるさんは下垂体ホルモンの分泌調節機構、木村紗也佳さんは細胞に感染したウイルスの分解機構、今西祥子さんは胆管癌の上皮間葉転換についての発表でした。三名とも、研修の内容をよく理解して、その上で自分の言葉で発表していたことが大きかったと思います。今西さんの発表は、いわゆる「ネガティブ・データ」でしたが、自分で手を動かしたベ

ンチワークについての発表が評価されました。四月十九日に、医学部長室で授賞式が行われ、若林孝一医学部長から三名の学生に優秀発表賞の賞状と副賞の図書カードが贈呈されました。若林学部長からは、全ての医師は科学者でなくてはならないこと、そのためにも臨床医になる人も一時期は研究に専念する時期が必要であることが述べられました。三名の今後のますますのご活躍を期待します。

一方、発表会では、教員が用意した原稿をただ棒読みしただけの学生も散見されたことは残念でした。私自身は、大学院生の時に、現在学長を務めておられる佐藤敬先生に、原稿を読むのはNGと指導されました。来年度は、自分の言葉でのプレゼンをもっと、男子学生の奮起を期待しています。

学生のレポートは「論文形式」としてあります。論文がパブリッシュされたときの喜びを学生諸君にも体験してもらえたら、一層、実りある研修になると思います。指導教員の方々は論文の作成までご指導いただければ幸いです。PubMedに掲載することがむづかしい場合には、「弘前医学」への投稿も歓迎致します。「弘前医学」はPubMedには収載されていませんが、弘前大学リポジトリで公開されており、Googleから検索できます。

学生諸君が初期研修終了の後は後期研修の一環として弘前大学大学院医学研究科に進学し、一度は研究に取り組んで下さることを期待しています。「博士号」は「専門医」とともに医師のキャリア上の重要な車の両輪だと思います。学生を指導していただいた教員ならびに審査を担当して下さいました教員の方々に、御礼申し上げます。

研究そして未来の研究へ

~ Fate of non-self single stranded RNA ~

医学科四年 木村 紗也佳 (脳血管病態学講座)

この度は研究室研修優秀発表賞をいただき光栄に存じます。ご指導いただきました松宮朋徳先生、今泉忠淳教授はじめ、脳血管病態学講座の先生方に心より感謝申し上げます。私の研究テーマは「非自己一本鎖RNAの分解機構」であり、この研究には一年次から向き合っておりました。一年次から松宮先生の下でお手伝いさせていただき、私はまだ右も左も分からない状態でしたが、実験器具の取り扱い方から丁寧に教えていただきました。三年次の研究室研修では、実験と同時に論文作成を進め、より精度の高い実験結果を得るために努力を重ねました。

地球上のウイルスの90%はRNAウイルスであり、インフルエンザウイルスや感染性胃腸炎の原因ウイルスは代表的なRNAウイルスです。これまで体内に侵入した非自己の二本鎖RNAが分解される機構については「RNase」を介した経路が知られてきました。が、非自己の一本鎖RNAの分解機構については未解明でした。そこで私の研究では、細胞内へ導入された一本鎖RNAによる抗ウイルス自然免疫応答活性化の有無と、一本鎖RNAの分解機構について調べました。実験の結果、上皮細胞等の非免疫系細胞に一本鎖RNAのみ導入した場合、一本鎖RNAは非自己として認識されず、細胞内の非自己核酸に対する抗ウイルス

優秀発表賞を受賞して

医学科四年 子川 ひかる (内分泌代謝内科学講座)

この度は、研究室研修優秀発表賞を受賞することができました大変嬉しく思います。私は内分泌代謝内科学講座で、「視床下部・下垂体ホルモンとストレス応答機構の分子生物学的解明」をテーマに研修させていただきました。

クッシング病は下垂体腺腫からACTHが自律的に産生されることにより、高コルチゾール血症を引き起こす病気です。治療の第一選択は外科的手術による腺腫摘出ですが、それが奏功しない場合、過剰なコルチゾール産生抑制のための治療が必要となります。治療効果が期待できる薬剤はいくつかありますが、下垂体に作用して直接ACTHを低下させるための薬物療法

は限られており、現在、より効果的な薬剤が求められています。そこで私たちはマウス下垂体ACTH産生腫瘍細胞(PCO)において、EGFR阻害剤であるラパチニブの効能について、ACTH産生および細胞増殖を指標として検討致しました。研究室研修では、先生方のご指導のもとに細胞培養から実験結果の解析まで行いました。初めは株分けの手順が覚えられなかったり、細胞がなかなか増えなかったりと苦労しました。また、何回か実験を行いました。結果が想定していたものと違うこともあり、実験の大変さや難しさを感じました。実験以外にも総回診の一部や抄読会に参加させていただきました。総回診では

多くの同志に賛辞を

医学科四年 今西 祥子 (病理生命科学講座)

この度は、優秀発表賞に選出頂き、誠にありがとうございました。一年に亘り、ご指導いただきました。病理生命科学講座 鬼島宏教授、呉雲燕助教をはじめ、指導に携わって下さった同研究室の諸先生方、発表会を主催して下さいました今泉教授に深く感謝申し上げます。病理生命科学講座において「肝内胆管癌における時計遺伝子Circadianの影響」というテーマで研究致しましたが、その間、呉助教が授業終了後の遅い時間帯や休日に無理を言って、ご指導をお願いすることが度々あり、そのご厚意に拝謝いたします。大学院卒業以来、久しぶりに基礎研究の空気に触れることができ、非常にワクワクする思いが湧いてきました。自分にはまだまだ知らないことがたくさんあり、臨床の現場に出る前にしっかりと勉強しておかなければと気が引き締められました。どれも非常に貴重な機会です。充実した研究室研修を行うことができました。この数か月で学んだことを生かして、これからも勉強していきたいと思っております。最後に、このような素晴らしい機会を与えてくださった配属先の担当教官の藤山先生、実験手を教えてくださった新岡さん、様々な場面でアドバイスをくださった高安先生、そして内分泌代謝内科学講座の先生方に心から感謝を申し上げます。

三日に亘る発表会では、研修期間が約半年間とはいえ、興味深い発表が多く、非常にワクワクして耳を傾けておりました。組織の電顕写真撮影やPCRなどの実験手帳が優れていた人。「研究内容の面白さでは誰にも引けを取らないのではないかと」と感じさせる人。質疑応答で今回の研修での成果・不透明点、今後の展望を明確に発表し、自身の研究内容に対する深い理解をアピールしていた人。指導教員の温かい眼差しの下、初めての実験・実習に戸惑い(中には、教員の肝を冷やした同級生もいたことでしょうか)。私もその一員ですが、涙し、喜び、奮起し、やっと得た努力の結果が、発表の瞬間、輝いたのではなかったでしょうか。多くの人が記憶に残る素晴らしい成果・内容を発表していただきました。そんな中で、優秀賞に選出頂いたことは、「仰天」の一言に尽きます。

ですので、「興味深い発表をしてくれた同級生」、並びに、「ご多忙の中、彼らの指導にあたられた忍耐強い先生方」もまた、同時に称賛されるべきだと感じています。三日間の素晴らしい貴重な時間を共に創造してくれた同志に心からの拍手を送りたいと思っております。

最後に、発表会運営に携わられた諸先生方並びに職員の方々に、改めて御礼申し上げます。

平成30年度 S D 章授与式

学務委員長 鬼島 宏

(病理生命科学講座 教授)

平成三十年度S D (Student Doctor) 章授与式が、平成三十年三月三十日に基礎大講堂にて挙行された。授与式では新五年次学生(二十年度一二四名)が、医の倫理に従って行動することを誓うことで、臨床実習 (bed side learning, BSL) を開始するという大きな意義があります。臨床実習では、医療現場で患者さんの前に立たせていただくことの責任の重さと、診療行為を通じて医学を学ばせていただくことへの感謝の念を持ちながら、医療チームの一員として真摯に行動することが求められています。本学におけるS D章授与式は、加藤博之教授(総合診療医学講座)の発案で、平成十七年度から始まり、今回で十四回目となります。さらに平成二十六年からは、共用試験 (Computer Based Testing CBT、および Objective Structured Clinical Examination OSCE) の合格者に対して、全国統一保証システムの 일환として、全国医学部長病院長会議がS D認定証を付与することとなりました。つまり、S D章は、臨床実習生の身分証 (I D) であると同時に、臨床実習を開始するための必要な知識と技能を身につけた証でもあります。

授与式では五年次学生全員がBSLユニフォームとしての白衣姿で臨みました。初めに若林孝一



「弘前大学医学部臨床実習生の誓い」

1. 私は、人類への奉仕に自分の人生を捧げることを誓います。
2. 私は、学び得た医学知識をもとに、良心と尊厳をもって医学の務めを果たします。
3. 私は、生命の始まりから人命を最大限に尊重し続けます。また、人間の性の法理に反して医療の現場に参加するに際し、

学部の知識を用いることはしません。私は、患者の健康を私の第一の関心事とします。

私は、私への信頼のゆえに知り得た患者の秘密を、たとえその死後においても尊重します。

私は、私を教え導く人々に尊敬と感謝の念を捧げます。

私は、私の自由意志に

平成三十年五月十六日に医学科F D (Faculty Development) が開催されました。東京医科大学・教授であり、厚生労働省関東信越厚生局・保険指導医の葦沢龍人先生をお迎えし、「国際認証の受審に向けてー東京医科大学の経験よりー」と題したF D講演会(主催：医学科学務委員会・医学教育センター)が開催されました。

平成30年度 医学科教育F D 国際認証の受審に向けて

学務委員長 鬼島 宏 (病理生命科学講座 教授)

弘前大学医学部医学科では、平成三十二年に医学教育分野別認証評価を受審することが決まっております。若林医学部長主導の医学教育センターの下で、その準備が始められています。この医学教育分野別認証評価とは、世界医学教育連盟(WFME)の基準に基づいた医学教育が実践されているか否かが問われる国際認証(日本では日本医学教育評価機構が認証)です。

「第6回世界自閉症啓発デー記念イベント」が「弘前」が開催されました

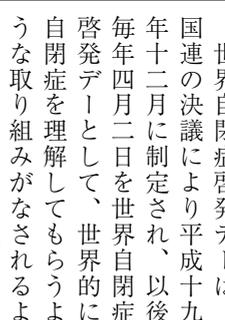
神経精神医学講座 教授 中村 和彦



「第6回世界自閉症啓発デー記念イベント」が「弘前」が開催されました

去る平成三十年四月二日、第六回世界自閉症啓発デー記念イベントin弘前が開催されました。去年に引き続き、弘前市のシンボルである弘前城天守がブルーにライトアップされました。

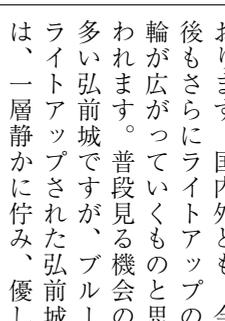
世界自閉症啓発デーは、国連の決議により平成十九年十二月に制定され、以後毎年四月二日を世界自閉症啓発デーとして、世界的に自閉症を理解してもらおうという取り組みがなされるようになってきました。我が国でも四月二日から八日を発達障害啓発週間とし、各地で様々なイベントが行われています。ブルーは世界自閉症(シ)および各段階のマイルストーンの設定が求められる、このためには統合型カリキュラムと診療参加型臨床実習(十分な実習期間)が重要となります。しかしながら、最も大切なことは、カリキュラムの改編ではなく、コンピテンシー達成度の評価とすることです。臨床実習では形成的評価となるため、評価基準を常に点検・改善する必要があります。



我々弘前大学も、今年度から来年度にかけて学習成果基盤型教育を導入し、社会からの要請に応えるべく、迅速かつ適切な医学教育改革を行ってゆきます。医学科教員がこれらの改革を共有するためにも、今後医学科教育F Dを実践し

現に至ることができました。特に今回は、弘前南高校の生徒さん四名に会場設営などボランティアで参加いただくことができました。自閉症をはじめとする発達障害について知っていたいただくこと、理解をしていただくことは、障害のある人だけでなく、誰もが幸せに暮らすことができ社会的実現につながると思えられています。

当講座では関係者の皆様のご協力を得ながら、今後もうこうした啓発活動について積極的に取り組んでいきたいと考えております。



稲門医師会とは早稲田大学公認の校友会であり、二〇一六年一月三十一日に設立されました。会員資格は早稲田大学出身(中退含む)で、医師・歯科医師・看護師・薬剤師いずれかの資格を持つ方と、これら医療系学生(準会員)となっ

稲門医師会並びに 稲門医学会の紹介

麻酔科学講座 教授 廣田 和美



ています。稲門医師会は、会員同士の親睦・交流に留まらず、医療に関する社会への情報発信、研究・教育面での大学との連携、地域稲門会との連携などの活動を展開して行くことを目標としています。私は千葉県出身で、昭和五十四年理工学部応用化学科に一年在籍し単位も取りましたが、思うところがあり本学医学部に入り直しました。その後、弘前に残り現在は麻酔科学講座教授をしております。昨年、医師会の学術部分を担

世界自閉症啓発デー



(前ページより)
はなく、手術は全て日帰り手術でした。十二月上旬に Sports Medicine の外来診療とリハビリテーションのみ、Emory Sports Complex という九万平方フィートの新しくできた建物に引越しました。こゝは、NBA の Atlanta Hawks と合同の施設で選手の練習拠点と Sports medicine の医療設備が一緒になっています。

Dr. X の外来はフェローやレジデントなどの若いドクターとアスレチックトレーナーのフェローで行われていました。フェローたちは患者さんの病歴聴取と診察を行い、Dr. X に報告し、一緒に画像を見て診断や治療方針についてディスカッションをします。その後、上の先生と再び診察に行くとこのシステムとても勉強になりました。手術は一日に十件くらいあり、膝の靭帯再建や半月板の手術、肩の関節鏡視下手術が行われていました。膝前十

字靭帯再建術は弘前大学ではこれまであまり行っていない四頭筋腱を用いた再建をメインに行っていました。手術治療や保存治療の考え方、医療システム、教育システムなどについて、日本とは異なることも数多く、これを考える良い機会となりました。最後に、ありがとうございましたが、このような貴重な



現在、青森市民病院で産婦人科医として勤務している千葉仁美です。医師として十一年目、産婦人科として九年目となります。平成二十年三月に琉球大学を卒業し、八戸市立市民病院で初期研修二年、産婦人科の後期研修一年を終えた後、医師四年目で弘前大学産婦人科へ入局しました。そこから産婦人科医として二年半、外病院で勤務した後、弘前大学医学部附属病院に戻り、そこで周産期分野のな留学の機会を与えてくださいました石橋教授、快く送り出してくださいました教室員の先生方にこの場をかりて心より感謝申し上げます。

関連病院勤務報告 地域の病院で研修して

青森市民病院 産婦人科 千葉仁美

学位も取得しました。平成二十八年十月からは現在勤務する青森市民病院に勤務しています。

なお私は青森市出身で、自身が生まれた病院も青森市民病院でした。私を取り上げてくれた助産師さんは退職されていましたが、弟や妹を取り上げてくれた助産師さんは現在も活躍しており、改めて地元密着型の病院だと思いました。そして自身も生まれた病院(生まれたときはまだ旧病院でしたが)に今度は産婦人科医として戻ってきたということに何か縁のようなものを感じました。



青森市民病院は青森市の総合病院および研修指定病院です。研修医は一年目と二年目合わせて十八名在籍しており、救急当直も担当しています。二年目の初期研修医は皆、産婦人科も一ヶ月ローテートします。当院産婦人科では合併症を有する妊婦、青森市への里帰り分娩希望の妊婦から子宮体癌、卵巣癌といった悪性腫瘍の方の紹介など、幅広く受け入れています。初診時診察から診断、加療の方針決定、手術、

つがる総合病院 整形外科 山内良太

私は平成二十四年度に弘前大学を卒業し、西北中央病院(現 つがる総合病院)で初期研修をおこないました。医学科四年生の時に手術後治療などを一連の流れとして自分が主治医として責任を持って決定していくため、より深く疾患について考え、学ぶよい機会となりました。総合病院のため自施設内で小児科や内科、外科とも連携し、治療にあたることもできます。一方で早産のハイリスク妊婦や胎児奇形の場合、子宮頸癌の方など、自施設で加療困難な症例は青森県立中央病院や弘前大学医学部附属病院へ紹介もしくは救急搬送をすることもあり、臨機応変な対応が求められます。自分を一回りも二回りも成長させてくれる、青森市民病院はそんな病院と感じています。

術見学へ行き、六年生のクリニカルクラークシップで一ヶ月間研修をしたことがきっかけとなり、研修病院として西北中央病院を選びました。生まれも育ちも東京である私にとって、西北五地域の環境に最初は戸惑うことばかりでしたが、患者さんに時には叱られながら、多くのことを学ばせていただきました。



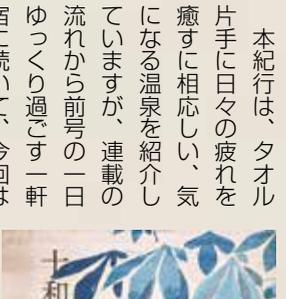
その中でも特に印象深いのが、研修医二年目の時に担当した方です。変形性股関節症という疾患で人工股関節全置換術の手術をし、わからないことだらけの中で入院管理、手術助手、外来での follow と必死になって勉強した記憶があります。つがる総合病院へ戻ってきてからの外来でその方が入室され、「西北病院で入院したときに担当してくださった山内先生ですよね？」と当時のことを覚えていてくださったっていました。さらに外来での診察を重ねるうちに、外反母趾による足の痛みに対し、手術して欲しいと希望がありました。整形外科医としてはまだまだ新米の私にとっては、外反母趾手術の執刀は経験したことがなく、正直

(次ページへ続く)

本紀行は、タオル片手に日々の疲れを癒すに相応しい、気になる温泉を紹介していきますが、連載の流れから前号の一日ゆつくり過す一軒宿に続いて、今回は風情ある温泉宿を綴りたいと思います。

葛温泉(第六十七湯：十和田市奥瀬：日帰り十六時まで)は、浴底よりナトリウム・カルシウム・硫酸塩・炭酸水素塩・塩化物の源泉が湧き流されています。粋な鄙びの本館を宿として、県内で最も歴史ある温泉(ウォーカー七十一号 温泉紀行③)に入れば、申し分なしです(写真：大正七年築。葛温泉を愛した大町桂月の「十和田湖を中心とする国立公園設置に関する請願」(大正十二年)を機に、法施行後早期に十和田国立公園(現 十和田八幡平国立公園)が指定されたことを知れば、歴史の重みも実感できます(書籍写真：昭和廿四年出版：表紙裏に十和田湖国立公園記念出版と記載)。

と称しているようです(写真：大正六年築・登録有形文化財)。地元名士小山田家(十六代目当主：樺峰苑主)の旧邸宅であり、複数の破風(千鳥・入母屋・唐)を組み合わせた独特の作りです。含みウ素強塩で薄緑褐色の湯もまた、ナトリウム・塩化物泉ながら印象的です。



鉛温泉(県外編第十六湯：岩手県花巻市)：豊沢川畔の南花巻温泉郷の奥に位置する藤三旅館本館は、総けやき造り木造三階建てで、昭和の懐古的な雰囲気満載です(昭和十六年築)。無色透明で肌に優しい四つの温泉があり、特に立つたまま入浴する白猿の湯は日本一深い自噴天然岩風呂(深さ約百二十五センチ)として有名です。

今回は、計らずしも四湯中三湯が県外の温泉となりましたので、前号(一日ゆつくり過す一軒宿)と同様に、是非とも旅を兼ねて一泊し、歴史を刻んだ木造の宿そのものを肌で感じてほしいと願っています。まさに、温泉と宿が一体化して深い癒しを与えてくれます。



鬼島 宏 (病理生命科学講座・教授)
葛温泉
洪温泉 (山ノ内町)
強首温泉 (仙北市)
鉛温泉 (花巻市)



(前ページより)
 にやったことがありませんとお話ししました。ところが、「失敗しても良いのでやって欲しいです。私で勉強してください。」と言われ吃驚仰天しました。死に物狂いで勉強して無事に手術を終え、足の痛みもよくなり、現在も外来で経過をみている最中です。

研修医の頃から西北五地域の患者さん達のおかげで成長させてもらってききましたが、現在進行形でたくさん事を学ばせてもらっています。この地域の皆様へ毎日恩返しをするつもりで診療に勤しんでおりますが、これからも研修医の頃の初心を忘れずに励んでいきたいと思っています。

学生だより

一年間を振り返って

医学科二年 蝦名輝樹

弘前大学医学部医学科に入学してから一年以上が経ち、学年が上がって、先輩がで、専門医学の教育が本格的に開始されようとしている今、一年生として一年間をようやく客観的に振り返ることができるようになった気がします。一年次では早期体験型実習や、臨床医学入門、医学英語などいくつかの専門科目が用意されてはいたものの、基本的には教養教育科目が履修の中心でした。入学したての頃は、受験に染まっていた頭を一新して早く医学を学ぶ体制を整えなければという焦りもあり、教養教育科目メインのカリキュラムに疑問を持ってしまったこともありましたが、今になって振り返ってみると、そこから得たものは決して少なくはありませんでした。時間に余裕のあるカリキュラムの中で、思索にふけったり、受験勉強に追わ

れて読むことができなかった本を読む時間を作ったり、大学で知り合った友人とゆっくり話したりと、自分なりに有意義な時間を過ごることができました。また、医学に関して自分興味のある分野に触れる機会を自主的に作ってみたりもしましたが、これは医師としての自分の将来について見つめなおす機会となりました。これらは一年次のカリキュラムに余裕があったからこそできたことです。もし一年次の余裕あるカリキュラムなしに、専門医学の学習が二年次以降のようなペースでいきなり進められていたら、私は今ほどの精神的な余裕と準備をもって専門医学に着手することはできなかったように思われます。また、受験勉強の感覚が抜けずにただただ試験勉強に追われて自分の将来像を見失ってしまっていたかもしれない。今

医学科二年 増地望美

本学に入学して一年が過ぎました。ようやく学生生活にも慣れてきたところで、私なりにこの一年を振り返ってみたいと思います。入学当初は、友人はできるのか、家事はこなせるのか、勉強についていけるのか、様々な不安を抱えていました。実際、新しい環境に慣れるのに一杯でしたが、今では気の置けない友人や優しい先輩方のおかげで楽しい学生生活を送ることができています。

学業面では、特に試験勉強に苦勞することもなく、全体的に余裕のある一年だったと思います。一年次は専門教育が少なく、教養教育がほとんどで初めは少し物足りないようにも感じました。しかし、教養教育科目には芸術系の講義やグローバル科目など高校までに教わってきかた内容とは全く違うものもあり、学問の幅広さや学ぶ楽しさを知ることが出来ました。また、弘前大学にはローカル科目と呼ばれる青森県に関する講義も多くあり、他県出身の私には新鮮で興味深く思えました。

部活動については、アルペンスキーの経験があった後は専門医学の学習が急ピッチに進められ、精神的余裕もなかなか一年次のようには保てなくなるかもしれません。これまでの一年間で考えたこと、見つめておいた自分の将来についてを時には思い返しなが、医学の修得に励み、医師となる準備を着実に進めていきたいと思っています。

留学だより

大学院4年 新戸部 陽士郎 (整形外科学講座)

平成二十九年四月から一年間、アメリカのフロリダ州に位置するマイアミ大学へ留学する機会を頂きました。お陰様で多くの貴重な経験をさせて頂きましたので、御報告させて頂きます。

マイアミ大学は「THE MIAMI PROJECT TO CURE PARALYSIS」というプロジェクトを行っており、脊髄損傷の研究が盛んに行われています。脊髄損傷の臨床試験の数を比較し



Oudega lab.

している先輩が多くいらっしやいます。そうした先輩方と一緒に練習し、指導して頂いたことは私の自慢です。尊敬する先輩方に少しでも近づけるよう、また大会で満足のいく結果を残せよう、これからも精進していきたいです。

二年生は講義に実習に忙しいなりに、本当に大変だと言われています。また既に私自身もそう実感し始めています。勉強に追われる一年になりそうですが、自分のペースで頑張っていきたいです。

でも、日本は六つなのに対してフロリダ州は五十一とその規模の大きさは桁違いでした。私が所属させて頂いた Luis Pope Life Center は細胞培養、脊髄損傷手術、細胞移植、行動評価、組織作成、免疫染色、顕微鏡評価と、一連の実験を一つの建物内でできる施設であり、恵まれた環境の中で実験を行うことができました。

私は脊髄損傷に対する間葉系幹細胞(MSC)移植などで有名な Martin Oudega 教授のラボに所属させて頂きました。Oudega lab. は MIAMI PROJECT の中でも最も実験を行っているラボの一つであり、このラボに所属できたことがとても幸運でした。私自身も三二一件の脊髄損傷手術や二九〇件の細胞移植術などを行い、頸髄損傷への細胞移植術やシユワン細胞移植など六つの study に関わらせて頂き、大変勉強になりました。自分の実験については脊髄損傷に対する新規 method を併用した MSC 移植を検討しました。お陰様で予定されていた実験を終了し有意差のある結果を得ることができ、現在論文化を進めております。

留学前は英語が苦手で、ハイレベルな研究者の中でやっていけるかなど、不安な事がたくさんありました。ただ実際にはとても勉強になり、充実した日々を過ごすことができました。特に痛感した事としては「待つては何も始まらない」という事です。アメリカには日本の様な付度はなく、自分から action を起こさないと何も起きず、一年間で結果を出すためには常に action を起こし続ける必要がありました。この経験を今後にも生かせるように精進したいと思っています。

また Miami project の研究者、日本人留学生の先生方など多くの人のつながりができたことも一生の財産になりました。脊髄損傷に



Macaky Memorial Hospital

二〇一八年四月より一月間クリニカルクラークシップとして台湾の Macaky Memorial Hospital にて留学しました。

私は総合診療科と整形外科をそれぞれ二週間ずつ見学させて頂きました。

総合診療科での実習は現地の学生と一緒に行動しました。実習内容は心電図や抗生剤の使い方などの講義を聞いたり、外来での問診、bedside learning、担当患者についてのプレゼンを分らないということはありませんでした。

整形外科では、現地の実習生がいなかったため講義などはなく、毎朝七時からカンファレンスがあり、病棟で回診をした後、八時半から手術見学をするというスケジュールでした。一日に三十五件の手術があり、手術と手術室の多さに圧倒さ

(次ページへ続く)

海外臨床研修を体験して

Macaky Memorial Hospital での臨床実習について

医学科六年 内田 絢子

ついで得た経験を弘前大学に還元できる機会があれば幸いです。最後に、海外留学という機会を与えて頂いた石橋教授、熊谷先生をはじめ弘前大学整形外科教室の皆様にご心より感謝を申し上げます。

したりしてました。台湾での医学教育は英語の医学書を使用するので、学生も先生方も医学英語が話せず、カルテの記載もすべて英語でした。ただ、患者さんとはもちろん中国語で話しますし、年配の方は台湾語を話すので、問診や入院患者さんとコミュニケーションをとることは出来ませんでした。中国語での講義や問診のときは隣にいらっしゃる先生や学生が英語に通訳して下さいましたので全く内容が

(前ページより)
れました。また、手関節や足関節の関節鏡手術も初めて見学することができました。

台湾に来て一番驚いたことは、台湾人は日本が大好きだということです。日本の歌、ドラマや映画をみていて芸能人をよく知っていたり、本屋さんでは日本語学習や日本観光雑誌が多く売られていたり、松屋やモスバーガーがあったり、ドラッグストアやコンビニでも日本の製品がたくさん売られており、生活に困ることはありません。

台湾は九州と同じくらい大きさを、地下鉄や新幹線が通っているのでも休日など日帰りでも気軽に観光することが出来ます。私は実習期間中に台北、九份、十分、台中、台南、高雄、花蓮と台湾をほぼ一周することができました。平日の実習後は現地で仲良くなった学生たちと夜市や近場の観光スポットに遊びに行きました。食べ物もとても美味しくて、五百円もあればお腹いっぱい水餃子や小籠包が食べられます。おいしいご飯を食べながら、台湾と日本の医療制度や保険の違い、医学部や研修プログラムの違い、日本時代など歴史についてなどいろいろな話をしました。台湾の文化や人々に触れて、私も台湾が大好きになったのが今回の一番の収穫だったかもしれません。

最後にこの留学を手配して下さった袴田教授と出立教授、日本と台湾の事務の方々、現地で案内して下さいました佐藤健太郎先生や北里大学の東山礼治先生そして台湾の先生方と学生の皆さんに感謝申し上げます。

海外臨床研修を体験して 台湾実習を終えて

医学科六年 黒岩 秀

わたしは今年の四月二日(四月二十七日の一カ月前、六年生のクリニカルクランクシップとして台湾の Mackay Memorial Hospital で General medicine と Neurosurgery で実習をさせて頂きました。まずはこのような機会を設けて頂いた学務委員会の先生方、助成いただいた大館・北秋田地域医療推進学講座、またこの実習に関してバックアップをしていただいた学務の方々にこの場を借りてお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

わたしがこの実習に申し込んだのは、元々海外の医療に興味があったことと海外に友達が増えたいというところが大きな理由でした。勿論海外での臨床実習が目的ですが、土日を利用して初

台湾を沢山観光して満喫しようという野望は持っていました(笑)。実際一カ月を終えてみると、行く前の不安がなくなったんだらうと思うくらい台湾の先生方や学生は面倒見がよく親切でかつフレンドリーで本当に助かりました。先生方



には臨床実習で医学的なことを沢山教えて頂きました。それがだけでなく、実習が終わると台湾文化に触れるためと称していろいろな料理を御馳走して頂きました。学生たちはいろいろなお店に連れて行ってくださりました。「お腹いっぱいだからもういらないよ」という英語が咄嗟に出てこなくなるほどお腹がはち切れそうになるほどご飯を食べ続ける羽目になったのも今では良い思い出です(笑)。台湾の方々におすすめの観光スポットやお店を教えてくださいましたので、有名なところからかなりディープなところまで台湾を知り得たのではないかと自負しています。今度は逆に今年の九月、十月に交換留学生として弘前大学に来る台湾の子たちにも

少しでも楽しい思い出を作ってあげられたらなと思っています。
肝心の実習についてですが、率直な感想としては向こうの医学生の方々の能力の高さに驚かされました。一番はやはり言語能力だと思えます。日本人から見れば「あの子は英語が堪能だよ」と言われるレベルで基本的に全員英語を喋りますし、中には日本語も喋れるという強者もいました。よくよく話を聞けば、医学は全て英語で習っているそうで、医学書がそもそも母国語の訳がなかなかないんだよねということ、英語が+αの能力と捉えられているというよりは最低限の必須スキルとして認識されている印象でした。また実習内容も非常に臨床的であり、五年生で抗生薬の使い方や投与量を習ったり、日本であれば研修医が持つようなポットマニュアルで実習中に勉強している姿は非常に印象的でした。
台湾の医学生を見てわたしがすごいなあと思うところはほかにも多々ありましたが、それは彼らからすれば特別なことではなく、当たり前前にならなければならないことのように思いました。彼らの当たり前にできることのレベルが高いことを実感するとともに、自分の感覚をずらす必要性を感じました。今後目標をなるべく高く設定して、少しでも自分の「当たり前」のレベルを引き上げられるよう努力しようと思っています。



「麻酔科学レビュー 2018」

廣田 和美
(麻酔科学講座 教授)

本書は、今年三月二十五日に総合医学社から、私と札幌医大麻酔科学講座の山陰教授との共同監修で出版しました。最初に刊行されたのは一九九六年であり、実に二十年以上のロングセラーとなっています。今回の特徴としては、麻酔科医をはじめとした周術期管理に携わる医師が把握しておくべきガイドラインを多く取り入れていきます。「術前絶飲食」

「周術期禁煙」「悪性高熱症」「宗教的輸血拒否」「危機的出血」「WHO 安全な手術」「産科危機的出血」「Awake Craniotomy 麻酔管理」「抗血栓療法」。さらには、最近急増している内視鏡手術の麻酔管理(口ポット手術も含む)や集中治療における血液浄化のトピックスにも言及しています。それぞれの分野のエキスパートが概説しているため、内容が理解しやすくなっていますし、それぞれの分野のエキスパートが最新の動向をどう読み解いているかもわかると思います。麻酔科学領域だけでも四十誌近くある学術誌に目を通

し、最近の趨勢を正確に把握することは時間的にも難しいと思います。そういう意味でも、周術期管理に関わる方々のお役に立てる著書としたいと思います。

「すべての医療従事者が 知りたい! 医学系研究、 論文投稿上の Q & A」

廣田 和美
(麻酔科学講座 教授)

昨年八月二十日に医事新報社から「すべての医療従事者が知りたい! 医学系研究、論文投稿上の Q & A」という本を編者ならびに執筆者の一人として出版しました。
研究はただ行うだけではなく、研究成果を正式に公表、すなわち学術雑誌の論文として出版することで初めて医療の進歩につながります。し

かし、現実問題として研究を施行したり論文を書いたりするのは容易ではありません。また、多忙な医療従事者は研究施行の倫理規定や論文投稿の規定が変わっていてもすぐに気がつかないことが多いです。このため、種々国際麻酔科学誌の編集委員を務めている編者三人で相談して本書を出版することにしました。そこで本書では、医療従事者が抱く疑問、見落としはならない要点を、英語医学雑誌の編集長や編集委員を務める方々に執筆を依頼して、Q & A 方式で端的にまとめました。項目はすべて、すぐに使える実践的な内容となっています。折角、論文を投

稿しても「倫理規定が守られていないため雑誌掲載ができない」と判断されてしまつのは勿体ないことです。詳細に決められている最新の倫理規定や投稿規定を効率よく把握して、雑誌掲載される論文投稿の方法を確認するためにも、本書をご活用下さい。

書籍の おしらせ

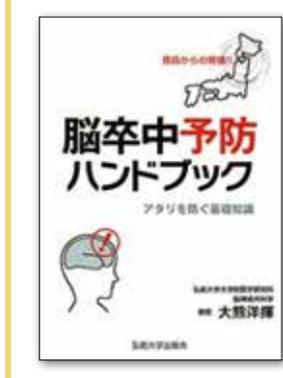
「脳卒中予防ハンドブック ―アタリを防ぐ基礎知識―」

大熊 洋揮
(脳神経外科学講座 教授)

青森県は古より脳卒中多発県として知られ、日本の短命県である一因にもなっています。原因は基礎疾患や悪い生活習慣(すなわち危険因子)を有する人が多いことに尽きます。脳卒中の危険因子としては、高

血圧症、糖尿病、脂質異常症、肥満、喫煙、飲酒、運動不足、等々ありますが、青森県はいずれも全国で有数の保有率です。
日々脳卒中診療に携わる中で、患者さん達が後遺症で苦しむ姿を見るかを痛感させられてきました。脳卒中は危険因子が確定している中で、実際には予防が困難なことではありませんが、これまで市民講座などで予防の重要性と具体的方法の普及に取り組んできましたが、浸透は十分とは言えません。そこで、口頭での伝達だけではなく活字媒体での普及も必要と考え、この度弘前大学出版会より一般市民向けに「脳卒中予防ハ

ンドブック」を出版させて頂きました。青森県の脳卒中発生の低減にささやかでも一助になれば幸いです。本書の出版に当たりまして、弘前大学出版会の足達薫先生、今泉忠淳先生、船木美里様に多大なるご助言、ご支援を頂戴致しました。この稿をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。



循環器腎臓内科学講座

循環器腎臓内科学講座 教授 富田 泰 史

当講座の母体である旧内科学第二講座は、昭和二十六年に開設されました。平成十九年には大学院部局化・重点化に伴い循環呼吸腎臓内科学講座に改組され、さらに平成二十六年には呼吸器内科学講座が独立し、同時に循環器腎臓内科学講座として再度改組となり今日に至っています。

循環器内科では、二十四時間三百六十五日体制で循環器救急患者を受け入れています。特に急性心筋梗塞などに対する緊急経皮的冠動脈インターベンションは年間百五十〜二百件であり、全国の国立大学の中でトップクラスの症例数です。不整脈に対するカテーテルアブレーション治療件数も年々増加し、最近では心房細動に対する肺静脈隔

離術（PVI）を積極的に実施しています。当科で開発したPVIの方法は、透視を使わずに手術時間が短く「弘大方式」と呼ばれ、全国から多くの不整脈専門医が手技を学ぶために当院を訪れています。また心不全や致死的不整脈に対するデバイス治療件数も年々増加し、最近ではリードレスペースメーカーや完全皮下植込み型除細動器（S-ICD）などの最新デバイスの使用が増えています。このように、いずれの治療も全国有数の症例数と経験を

有し、国内外に情報を発信しています。さらに、平成三十一年度にはハイブリッド手術室が稼働します。大動脈弁狭窄症などの構造的疾患に対する最先端カテーテル治療（経皮的主动脉弁留置術（TAVI）など）の実施に向け、着々と準備を進めています。腎臓内科では、検尿異常の精査から慢性腎臓病、透析医療まで腎疾患の全てのステージを対象とし、最新の医療を提供しています。慢性腎不全への進展を防ぐために、積極的に経皮的腎

呼吸器内科学講座

呼吸器内科学講座 教授 田 坂 定 智

呼吸器内科学講座は、平成二十六年十二月に循環呼吸腎臓内科学講座（旧内科学第二講座）を改組して循環器腎臓内科学講座と呼吸器内科学講座が設置されたことに端を発し、平成二十八年一月に田坂が初代教授として着任した新しい講座です。しかし旧内科学第二講座の初代教授である大池弥三郎先生が東北大学抗酸菌病研究所（現加齢医学研究所）で結核の研究に従事していたことを考えれば、

古くて新しい講座と言えるかも知れません。附属病院では呼吸器内科・感染症科として、主に肺癌や気管支喘息、間質性肺炎などの呼吸器疾患の診療に従事しています。当初はスタッフ五名での船出でしたが、現在は大学院生・医員を含めて十二名と倍増しています。それでも教育・診療・研究に果たす役割に比べればまだまだ少ない人員であり、新しい仲間が加わってくれることを期待しています。教育面では医学科三年次の系統講義（呼吸器内科学・外科学と感染症学の一部）、四年次の臨床実習入門、五年次のBSL、六年次のクリニカルクラークシップを担当しており、他

にも保健学科の講義も行っています。呼吸器疾患は悪性腫瘍から感染症、アレルギー疾患とバラエティーに富んでおり、画像所見、呼吸機能、病理などによって病態を多面的に捉えることが呼吸器病学の醍醐味です。教育の場では、学生の皆さんにこうした呼吸器病学の面白さが伝わるように心がけています。卒業教育では、今年から新しい専門医制度がスタートしました。呼吸器内科学講座では呼吸器内科重点コースを設けており、内科専門医に加えてサブスペシャリティとして呼吸器、感染症、アレルギーの専門医資格が取得できるような体制を整備しています。

への活用が期待されます。研究面では、肺癌の薬物療法を中心に数多くの臨床研究を展開しています。とくに北東日本研究機構や胸部腫瘍臨床研究機構（TORIG）などの多施設共同研究には積極的に参加しています。また肺の気腫化や気道の壁肥厚を定量的に評価できる画像ワークステーションを用いて形態と呼吸機能との関連について研究しています。基礎研究についても、昨年基礎校舎一階

に研究スペースをいただき、気管支喘息やがん免疫療法に関する研究がスタートしています。呼吸器内科は肺癌や肺炎、喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、間質性肺炎など扱う疾患が多岐にわたる一方、全国的に専門医が不足している領域です。これからも個々の患者さんに最適な医療を提供するとともに、優れた呼吸器内科医の育成、時代をリードする研究に全力で取り組んで参ります。引き続きのご指導、ご支援をお願いいたしますとともに、私たちが一緒に呼吸器病、感染症、アレルギーをやってみたいという若い力を待っています。



今年度から新内科専門医制度が始まりました。当科では全身を診ることができる総合的な内科診療をベースとして、サブスペシャリティである循環器病学あるいは腎臓病学を学べる研修環境を整えています。人材育成には特に力を入れていきますので、当科に興味のある方はいつでもお声

研究面では、豊富な症例数をもとに多くの臨床研究を展開しています。全国規模あるいは世界規模の多施設共同研究にも積極的に参加し、エビデンス構築に貢献しています。基礎研究では、次世代シーケンサーやiPS細胞技術などの最先端の研究手法を取り入れ、冠攣縮性狭心症や高血圧性心臓病・腎臓病に対する新規治療法の開発など、基礎講座とも連携しながら積極的に取り組んでいます。

診療面では、県内外の多くの病院から患者さんを紹介いただいております。平成二十八年度の入院患者数は六百六十五名と、五年間で二・五倍に急増しています。内訳としては、肺癌をはじめとする腫瘍性疾患が約八割を占めています。肺癌については分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬など治療が急速に進歩していますが、当科は全国規模の肺癌遺伝子診断ネットワークであるLCS-CRUM-Japanに参加し、治験も含めて有効性が期待される治療を提案しています。また気管支鏡下に十分な量のサンプルを採取するためのクワイオ生検も導入しており、肺癌の遺伝子診断など



部活動紹介

卓球部

医学部三年 藤巻 昂太



二〇一六年リオ五輪では、男女団体でアベックメダルを獲得したり、最近では「チョレイ」でお馴染みの張本選手が活躍したりするなど卓球における世間からの注目度は年々増しているように感じます。

そんな若の卓球ブームを象徴するかのよう、我が部活でも近年、部員が増加傾向にあり、現在、男子三十三名、女子二十六名、計五十九名の大所帯で活動し

ています。卓球というと、どうしても根深ないイメージが付きまわりますが、決してそんなことはありません。コンマ数秒の間に判断し相手コートにボールを打ち返す俊敏さ、少しの気の迷いがダイレクトに試合の流れにつながる繊細さ、その反面、テールほどの小さなコートを紹介して繰り広げられるラリー戦のダイナミックさ、どこをとっても、これほどまでにスポーツの奥深さやおもしろさが詰まっている競技は他にないと思います。私たちは日々、そんな卓球の奥深さや面白さを共有しながら初心者、経験者問わず練習に励んでいます。

昨年度は、東医体で女子団体が準優勝を果たし、三月に行われた東日本の医学、歯学、薬学系の全ての大学が集まる大会では念願であった女子団体優勝というタイトルを獲得し、その人気とともに実績にもさらに磨きがかかってきていると実感しております。我が部の良いところは、皆が全力プレー、全力応援を心がけている点です。そのため、



バレーボール部(女子)

医学部四年 柴田 佳奈

弘前大学医学部女子バレーボール部は、医学科・保健学科合わせましてプレイヤー二十一名、マネージャー七名の計二十八名で活動しております。週三回という限られた練習時間の中で、毎年五月に行われる北日本医歯薬看護学生体育大会(北医体)、八月に行

われる東日本医科学生総合体育大会(東医体)、十二月に行われる弘前市総合バレーボール選手権大会の三つの大きな大会に出場し、勝ち進むことを目標として日々練習しております。北医体では優勝(二〇一八)や準優勝(二〇一六、二〇一七)、東医体では準優勝(二〇一五)とい

う成績を残しています。部員の中には、小学生の時からずっとバレーをやっていた人も多く入って初めてバレーをしたという人もいます。学年、バレー経験に関係なく、みんなが周りの部員の良いところを吸収しようという姿勢が、部活全体の雰囲気や士気を良くし、またチームを強くしています。のだと思っております。

個人競技と思われがちな卓球において、チームワークが必要となる団体戦で好成績を残せているのではないかと思います。もちろん日々の練習は全力ですが、卓球部は各種行事にも全力です。春の花見に始まり、わんこそば、秋田大との定期戦(年一回)、海水浴、B・B・Q、遠足、陣中見舞い、クリスマス、ド



バレーボール部(男子)

医学部三年 池田 祐一

ること。レシーバーはセッターが少しでもトスを上げやすいようカットをあげ、セッターはアタッカーが最大限にパワーを発揮できるようにトスをあげる、まさに思いやりのスポーツです。バレーボールといえば、ドーンとスパイクをカッコよく決める姿をイメージすると思いますが、その攻撃はレシーブ、トスといった地道なプレーによって支えられているのです。チームプレーというのは魅力であると同時に、バレーボールという競技の難しさでもあります。いくら個々の技術

が高くても、チームとして勝てなければ意味がありません。チームを強くするのは、プレイヤー同士の信頼関係であったり、思いやり、また落ち込んだ時に励ましてくれるチームメイトの応援だったりします。コートに入る六名のプレイヤー、ベンチで控えるブレイヤー、サポートしてくれるマネージャー、ユニホームを着られない中でも一生懸命応援してくれるブレイヤー、そんな全員の思いを一つにしてこれからの試合に臨みたいと思っております。

私達バレーボール部は現在プレイヤー十八名、マネージャー五名の計二十三名で主に医学部体育館、文

ニメの影響もありバレーボールをやったことのない人というのはあまりいないと思います。しかし、実際に活動でバレーボールをやるとなるとやはりバレーボールは難しいそう、というイメージを抱いてしまいがちですが、実際私達バレーボール部のプレイヤーでは十三人が大学から始めた人で、その中でも積極的に練習に励みお互いに切磋琢磨し合っています。バレーボールはチームで試合をするのでチームワークというのが大変重要になってきます。なので部員どう

コラム

医学部 2はね話

新学期、赴任後初めて新入生歓迎式典に出席しましたが、医学部の歴史も知ることができ、アットホームかつたいへん有意義な会でした。式典のメインイベントが、教授陣による部活の勧誘というのが面白いですね。式典が終わってパーティー会場に移動しようとしたところ、上級生の皆さんが大学して階段で待ち構えていたのにびっくり！何か、脳裏を「お礼参り」という言葉がチラツとくすめましたが(笑)、もちろん、実際は、皆さん礼儀正しく挨拶してくれたので安心してました。講義も始まり、今年度は私の担当科目は内容を一新

しではお互いのことをよく理解しあっておりとても雰囲気としては明るい部活です。練習では声を掛け合っている時は叱咤し、良いプレーがあれば褒め合うことが多いです。また一年を通してイベントもあり、夏には海に行きキャンプにも行きます。そしてバレーボール部は積極的に学友会野球に参加してまして部員の中で野球が好きなたちが集まり、毎年参加しています。私自身バレーボールは球技大会等でしかしたことがありませんが、ルールはシンプルでボールを三回までにいろいろなコンビネーションで相手コートに返せば良いというものです。ここに一球の一瞬がこもってお

医学部管弦楽団

医学科四年 中野真幸



この春で新入部員が十一名入部し、団員は総勢四十四名となり活気に満ちあふれています。大学から新しく楽器を始める団員も多く、早く弾けるようになるために必死に練習しているところ。医学部管弦楽団は初夏とクリスマス、の年二回、弘前大学医学部附属病院での院内コンサートを中心に活動として、週一回の合奏を設けて音楽活動を行っています。主にバロック音楽やモーツァルト、ハイドンに代表される古典派音楽を中心に取り組んでいますが、加えて、誰もが耳にしたことがある日本の唱歌やクリスマスメドレーなど、季節に合わせた音楽にも挑戦しています。有り難いことに、院内コンサートは好評をいただいております。患者さんからの感謝の言葉が私たちの音楽活動の大きな励みとなっています。

先日五月十二日には、昨年続き、ドイツのKarlsruhe市立病院、Freiburg大学血管外科のMartin Stock教授を迎え一緒に練習していただき、一外科の辛夷会にて演奏させていただきました。昼から数時間という少ないリハーサル時間の中でしたが、私たち団員にとって大変貴重な体験となりました。偏に楽器を弾くといつても、弾き方によって曲の雰囲気や全曲の印象が全くと変わってきます。どうすれば深みのある音を出せるのか、キレのある音が出せるか、様々なことを一緒に弾きながら教えていただけました。また、技術面だけでなく、Martin Stock教授の楽しく演奏する姿勢を見て音楽の楽しさを再認識できました。この貴重な体験を胸に、今後も練習に励んでいきます。

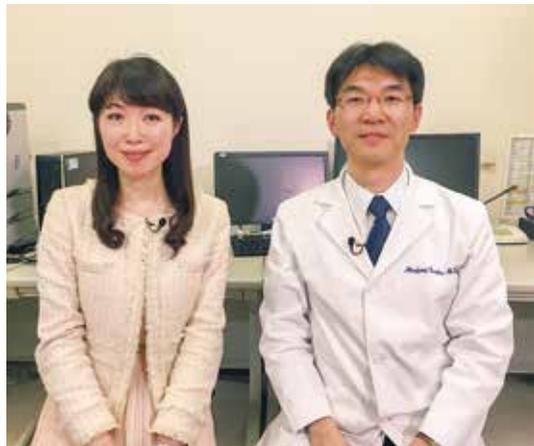
私自身、今、医学の勉強を一生懸命している



「ATVテレビ診察室」に出演して

循環器腎臓内科学講座 教授 富田 泰史

平成三十年二月に四週にわたって、当講座の佐々木真吾准教授とともに「心不全」についてお話しさせていただきました。私は前半の二週を担当し、「心不全って何?」「心不全の症状と検査」というテーマで出演させていただきました。



心不全の罹患率は高齢になるほど増加します。超高齢社会を迎える我が国では心不全患者が急増し、「心不全パニック」が到来すると予測されています。しかし、心不全についての社会における理解は、まだまだ不足しています。が、膨大な知識を覚える必要があったり、難しい試験があったり、勉強が大変だと感じる時もあります。そんな時に部活に出て楽器を弾くと、気分転換になり、また勉強しようという活力になり音楽に助けられています。楽器は何歳からでも始められる一生涯の趣味になります。興味のある方は是非演奏を聴きにきてください。

心不全の罹患率は高齢になるほど増加します。超高齢社会を迎える我が国では心不全患者が急増し、「心不全パニック」が到来すると予測されています。しかし、心不全についての社会における理解は、まだまだ不足しています。が、膨大な知識を覚える必要があったり、難しい試験があったり、勉強が大変だと感じる時もあります。そんな時に部活に出て楽器を弾くと、気分転換になり、また勉強しようという活力になり音楽に助けられています。楽器は何歳からでも始められる一生涯の趣味になります。興味のある方は是非演奏を聴きにきてください。

「ATVテレビ診察室」に出演して

循環器腎臓内科学講座 准教授 佐々木 真吾

今回、青森県医師会のご厚意によりATVテレビ診察室に出演させていただきました。機会に恵まれました。与えられたテーマは心不全の治療です。ご存知のように心不全は心臓病に限らずあらゆる疾患の「終末像」であり、その高い死亡率から十五年以上も前から「悪性の病態」として認知されています。日本においても日本循環器学会による実態調査では年間約二十万人の患者が入院治療を必要としており、人口の高齢化とともに、その患者数は年間一万人ずつ増加しています。

心不全は古くは左室機能不全、運動耐容能の低下、不整脈の三つの異常の重なった症候群と定義されてきました。この定義は非常にシンプルで心不全治療の目標、つまり心臓の機能をきれなくなり、食欲低下、体重増加、息切れ、浮腫などの「うっ血」の症状を呈します。多くの心不全は適切な治療により一旦は改善しますが、心不全そのものの完治は難しく、過労や塩分の摂り過ぎ、風邪やストレスなどにより心不全が再発することがあります。再発と改善を繰り返すことにより心臓のポンプ機能は徐々に低下し、心不全はさらに進行していきま

心不全は血液を全身の臓器に送るポンプの役割を担っています。心不全となり、ポンプとしての機能が十分に果たせなくなると、心臓から全身へ十分な血液を送り出すことができなくなり、疲れやすい、だるい、血圧が下がる、手足が冷たいなどの「低心拍出」の症状を呈します。さらに、全身から心臓にも血液が戻り

回復させ日常生活の可能なレベルに到達させることで患者QOL (Quality of Life) を高め、さらに生命を脅かす危険な不整脈を予防することで心不全発症後にも生命予後を改善する、という目標を明確に示しました。しかし、実際の心不全は様々な疾患や病態が複雑に関連した病態にあり、より緻密な診療アプローチが必要となることは既に自分から分かることかと思えます。

心不全の治療は心不全のリスクの管理から始まり、すなわち心不全のリスクとなる生活習慣(食事管理、禁煙、運動の励行など)や基礎疾患の管理を早い段階から開始し、その発症を抑えることから始まり、心不全に対する先制医療といっても差し支えないかも知れなく、重症です。

厚生労働省による二〇四五年の青森県の推計人口は約八十二万人であり、六十五歳以上が四六・八%を占め、高齢化率は全国二番目になると予測されています。青森県も「心不全パニック」に突入します。心不全の診断そして最新の治療を提供すると同時に、県民への啓発活動にも尽力し、青森県の短命県返上にも少しでも貢献したいと思えます。最後に、このような貴重な機会を与えてくださった青森県医師会の皆様

しれません。それでも心不全を発症された場合には心不全の病期と自覚症状に基づいて、病期に適した治療方法が選択されます。薬物治療は「坂道を上る荷馬車」に例えられます。以前は弱った心臓に鞭を打つような強心薬が積極的に使用されていましたが、強心薬は患者寿命を延ばすどころか安易に使用すれば心臓を弱らせることがわかり、現在では馬の荷を減らしたり(ACE阻害薬やアンギオテンシンII受容体拮抗薬)、速度を遅くする(β遮断薬)治療薬が治療の中心となります。これらの薬には心臓の筋肉の病的な変化(変性)を抑制したり、心臓の働きを穏やかにすることで心筋を保護する効果があり、心不全患者の未来を変える可能性が示されています。これらの治療でも十分な治療効果が得られな

い場合には心臓再同期療法や植え込み型除細動器、補助循環装置などの非薬物療法が考慮されることとなります。

一方、これらの適切な治療がなされた後でも度々心不全が悪化し入院を繰り返す患者も少なくありません。心不全悪化の原因、誘因の多くは日々の診療のみで解決できるものではなく、患者を中心に医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士やソーシャルワーカーらによる連携が必要であり、心不全治療は従来の「個の治療」から「チームでの治療」へと大きな転換期を迎えています。



公益社団法人 青森医学振興会

- 青森 平成11年2月1日 弘前大学医学部附属病院(青森県) 青森県立中央病院(青森県)
 青森 平成14年4月1日 公益社団法人青森県医師会(青森県)
- 貴会では、21世紀の青森県医師会 医師や看護師に支援しようとする事業を行っております。
- 医学教育の推進 教育活動を支援するための支援
 - 医学研究の推進 研究活動を支援するための支援
 - 地域医療の推進 地域医療に貢献するための支援
 - 国際医療の推進 国際医療の発展

同時に、貴会の発展とご寄与を期待しております。貴会と青森県医師会との協力は不可欠です。

口 費	青森県医師会 青森県立中央病院 青森県立病院 青森県立総合医療センター 青森県立こども医療センター 青森県立がんセンター 青森県立老人医療センター 青森県立産科医療センター 青森県立救急医療センター 青森県立総合医療センター 青森県立こども医療センター 青森県立がんセンター 青森県立老人医療センター 青森県立産科医療センター 青森県立救急医療センター	1000円 500円 300円 200円 100円 50円 30円 20円 10円 5円 3円 2円 1円 500円 300円 200円 100円 50円 30円 20円 10円 5円 3円 2円 1円	青森県医師会 青森県立中央病院 青森県立病院 青森県立総合医療センター 青森県立こども医療センター 青森県立がんセンター 青森県立老人医療センター 青森県立産科医療センター 青森県立救急医療センター 青森県立総合医療センター 青森県立こども医療センター 青森県立がんセンター 青森県立老人医療センター 青森県立産科医療センター 青森県立救急医療センター
-----	--	---	--

お問い合わせ TEL: 0176-991111 FAX: 0176-991112

人事異動 (H30.3.1 ~ H30.5.31)

●医学研究科

【昇任】

Table with 5 columns: 発令日, 所属, 職名, 氏名, 前所属. Rows include H30.4.1 産科婦人科学講座 助教 追切 裕江 and H30.5.1 整形外科科学講座 准教授 山本 祐司.

【採用】

Table with 5 columns: 発令日, 所属, 職名, 氏名, 前所属. Multiple rows for H30.4.1 covering various departments like 社会医学講座, 循環器腎臓内科学講座, etc.

【配置換】

Table with 5 columns: 発令日, 所属, 職名, 氏名, 前所属. Rows include H30.4.1 心臓血管病先進治療学講座 講師 横田 貴志 and H30.4.1 救急・災害医学講座 助手 竹川 大貴.

【配置変更】

Table with 5 columns: 発令日, 所属, 職名, 氏名, 前所属. Rows include H30.4.1 放射線腫瘍学講座 教授 青木 昌彦 and H30.4.1 放射線診断学講座 助教 掛端 伸也.

【辞職】

Table with 5 columns: 発令日, 所属, 職名, 氏名, 異動先等. Rows include H30.3.31 心臓血管病先進治療学講座 准教授 樋熊 拓木 and H30.4.30 消化器血液内科学講座 准教授 下山 克.

【休職】

Table with 5 columns: 発令日, 所属, 職名, 氏名, 異動先等. Row: H30.4.1 脳神経生理学講座 助教 三木 康生.

【任期満了】

Table with 5 columns: 発令日, 所属, 職名, 氏名, 異動先等. Row: H30.5.31 高血圧・脳卒中内科学講座 助教 田中 真実.

臨床教授・臨床准教授称号付与者 (平成30年4月1日現在)

Table with 5 columns: 称号名, 氏名, 現職名, 称号付与日, 推薦講座. Rows include 臨床教授 星 克樹, 臨床教授 柴田 滋, etc.

●附属病院

【昇任】

Table with 5 columns: 発令日, 所属, 職名, 氏名, 前所属. Row: H30.4.1 脳神経外科 助教 片山 耕輔.

【採用】

Table with 5 columns: 発令日, 所属, 職名, 氏名, 前所属. Multiple rows for H30.4.1 covering various departments like 消化器内科, 内分泌内科, etc.

【配置換】

Table with 5 columns: 発令日, 所属, 職名, 氏名, 前所属. Rows include H30.4.1 卒後臨床研修センター 助教 西崎 史恵 and H30.5.1 整形外科 講師 熊谷 玄太郎.

【配置変更】

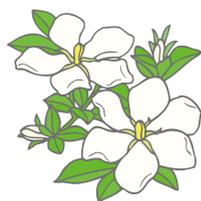
Table with 5 columns: 発令日, 所属, 職名, 氏名, 前所属. Rows include H30.4.1 周産母子センター 助教 西村 顕正 and H30.4.1 高度救命救急センター 助教 于 在強.

【辞職】

Table with 5 columns: 発令日, 所属, 職名, 氏名, 異動先等. Multiple rows for H30.3.31 and H30.4.30 covering various departments like 消化器内科, 呼吸器内科, etc.

診療教授等新規称号付与者 (H30.3~H30.5)

Table with 4 columns: 称号, 氏名, 所属, 期間. Rows include 診療教授 二神 真行, 診療准教授 村上 宏, etc.



(小林 記)

春の人事異動により多くの先生の出入りがあり、春は別れの季節でもあります。春は別れの季節でもあり、出合いの季節でもあります。同じ青森県であれば、色々な機会が会うことも多く、いつものことでも、それほど寂しい感じはしません。県外でも同様な仕事をしていますので、学会で再会することもあり、非常に大きくなり総会などでは地方での開催が難しくなると、折角の地方独自のグルメリを楽しまないこととが、とても残念です。個人的に札幌は何度いっても楽しいですが、弘前大学には県外からの学生も多くいますので、地方の学会にいく際には、学生からの情報収集も役に立ちます。しかし、ネットは非常に便利で、目的地まで簡単に迷わず行くことができ、今はスマートフォンがあれば、どんなに遠くに離れたとしても、近くにいるように連絡が取り合える便利な世の中で、必要不可欠に感じますが、なくてもそれなりになんとかなっていくのだらうと自分には思っています。

編集後記

春の人事異動により多くの先生の出入りがあり、春は別れの季節でもあります。春は別れの季節でもあり、出合いの季節でもあります。同じ青森県であれば、色々な機会が会うことも多く、いつものことでも、それほど寂しい感じはしません。県外でも同様な仕事をしていますので、学会で再会することもあり、非常に大きくなり総会などでは地方での開催が難しくなると、折角の地方独自のグルメリを楽しまないこととが、とても残念です。個人的に札幌は何度いっても楽しいですが、弘前大学には県外からの学生も多くいますので、地方の学会にいく際には、学生からの情報収集も役に立ちます。しかし、ネットは非常に便利で、目的地まで簡単に迷わず行くことができ、今はスマートフォンがあれば、どんなに遠くに離れたとしても、近くにいるように連絡が取り合える便利な世の中で、必要不可欠に感じますが、なくてもそれなりになんとかなっていくのだらうと自分には思っています。